

CASBEE® 名古屋

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2019年版、省エネルギー等環境性能向上促進法に基づく評価) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)池下1丁目プロジェクト	階数	地上13F
建設地	名古屋市千種区池下一丁目803番	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域、駐車場整備地区、緑化地域	平均居住人員	130 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店・集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年8月 予定	評価の実施日	2022年10月18日
敷地面積	693 m ²	作成者	
建築面積	442 m ²	確認日	2022年10月19日
延床面積	4,522 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE0.9 ★★★★★ ☆: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C 環境品質 G 環境負荷 L	★☆☆ 100%超: ★☆☆ 100%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 60%: 30% 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.1 音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.6 機能性 耐用性 対応性	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.5 生物環境 まちなみ 地域性・
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.8 建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.7 水資源 非再生材料の 汚染物質	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.5 地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項		
総合 南北の周囲環境の違いを考慮し建物配置を行った。南の幹線道路に面した壁面ラインを意識し、静粛感の有る北側により多くの空地を設けた。社会的に良質なストックとなるよう熱負荷を抑制しZ E H-M Orientedの取得を目指す。	その他 従前の基礎躯体等を調査し、新築に影響のない範囲での解体を取止め産業廃棄物、エネルギー消費、騒音等の低減に配慮した。	
Q1 室内環境 断熱性の向上、日射熱負荷の低減、F☆☆☆☆の建材を使用しシックハウス対策等、室内環境の快適さを高めた。	Q2 サービス性能 屋内廊下の採用等、熱負荷の低減や天候の影響低減に努めた。	Q3 室外環境(敷地内) 機械駐車場の要否等、周囲インフラを調査し、敷地内には機械駐車場を設けず平面駐車場とし空地の確保並びにエネルギー負荷の低減を目指した。
LR1 エネルギー 潜熱回収型給湯機の採用等、熱負荷抑制に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 断熱材をノンフロン材とするなど地球温暖化抑制に配慮した。	LR3 敷地外環境 周囲環境を鑑み、少しでも多くの空地空間の確保に努めた。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)池下1丁目プロジェクト

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.5
LR1	エネルギー	3.9	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	2.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上			
3. 循環型社会				2.6
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.5



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 2.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。